

古屋拉致問題担当大臣記者会見要旨

日時：平成26年3月20日（木） 8:54～9:02

場所：内閣府本府1階118会見室

1. 発言要旨

おはようございます。私からは特に申し上げることはございません。

今日で予算が成立する予定でございますが、引き続きしっかりこの日本経済の再生、そして私の所管政策の実行のために頑張ってもらいたい、心を新たにしてまた頑張ってもらいたいと思います。

以上です。

2. 質疑応答

（問）共同通信の江藤です。

日朝協議に関連してお聞きします。交渉に当たって、大臣は北朝鮮について、「普通の国ではない」というふうに先日おっしゃっていたと思うんですけども、自由な報道とかもなく、国民生活のことも余り考えない、平気で強硬な要求をしてくるという、そういう国柄だと思われるんですけども、改めての質問になって恐縮なんですけれども、これからの協議、どういうふうな姿勢で臨んでいくと考えていらっしゃいますか。

（答）私は「普通の国でない」という言及はよくしていますけれども、皆さんも多分同じ意識じゃないでしょうかね、普通の国ではありませんよね。その上で今、日朝協議を19日、赤十字会がやっていますけど、また19、20日もやるというふうに承っておりますが、交渉の途中経過でございますので、その中身等々について私から言及させていただくことは控えさせていただきたいと思いますが、総理もいつもおっしゃっているように、あらゆる場面を通じて拉致問題解決のために、そのチャンスを捉えていく必要があるということは私も全く意識は同じでございます。そういう認識に立ってこれからも拉致問題解決、全ての拉致被害者の帰国のために頑張ってもらいたいと思います。以上です。

（問）関連して、大臣は加えて、とにかく拉致被害者を返せと、「ボールは向こうにある」という言い方をされていると思いますけれども、やはりそういう向こうがどういうボールを投げ返してくるか、そういうボールの見きわめというのはやはり難しいという御認識でしょうか。

（答）それは交渉の経緯とか中身の話ですので、これは今そういう話は申し上げるわけにいきませんが、ただ、COIも最初は担当大臣の私や関係者に、果たして日本は何人の拉致被害者がいるんだということを相当聞いてきましたよね。だけれども、最終的に私たちは、全ての拉致被害者を返す、それは政府の認定の有無にかかわらずということをはっきり我が国の政府の基本方針として言っている。従って、ボールは向こうにあるんだと、こういうことを、カービー委員長もそれを御納得の上、100人以上というCOIとしての御判断を出してああいふ報告書を作った、こういうことであますよね。そういうこと

からしても、やはり向こうにそのボールはあるということでもあります。

(問) 核セキュリティ・サミットに併せて日米韓の首脳会談が開かれるのではないかと
いう見通し、そういった報道もあるんですけども、もし開かれた場合は、北朝鮮をめぐる
核、ミサイルに加えて、拉致も含めて期待する部分というのはありますでしょうか。

(答) 開かれるか開かれぬか、そういう仮定の話でのお答えというのは私からは差し控
えたほうが適切だと思います。いずれにいたしましても、私たち政府は拉致、核、ミサ
イルを包括的に解決する。しかし、日本には拉致問題という日朝間の問題を抱えている。従
って、その問題について主体的に話をすることはあるのだということは、もう昨年来
ずっと私も政府も言い続けていることでもあります。

(問) TBS、丹羽です。

日朝赤十字で出席されている先方の北朝鮮の劉成日(ユ・ソンイル)さんは、めぐみさ
んのニュース、お会いになったことに関しては、家族が会えたことはいいというふう
に、この辺はどんなふうにごらんになっていますか。

(答) 私はニュースで映像を見ました。御社の映像かな。

(問) はい、そういう言及の仕方をしているということは。

(答) 私も見ました。それは私どももその映像はしっかり見た上で今後の対応をしてい
くということでございまして、それに対してどういう印象を持つとか、そういうことを私
が言うこと自身があらぬ誤解を生みますから、それは控えさせていただきます。

(問) 正恩体制になってからの姿勢の変化とかいろいろなことを感じだと思えますけ
ども、そういうことも含めての途中経過。

(答) まず、かつて北朝鮮は、お孫さんに会うときは北朝鮮に来いと言っていましたね。
それを第三国での面会を認めた。これは北朝鮮の態度の変化でありますね。これは客観
的な変化ですよ。昨日、総理もそのことを予算委員会で言及しておられますね。そう
いった北朝鮮の動きというものを詳細に分析しつつ、拉致問題解決のために取り組ん
でいくということが私たち政府の責務であります。

(問) その後、例えば、横田さんたちとお電話でお話しされたりというのは。

(答) そういったことについてはちょっと控えさせていただきます。しかし、横田さん
を始め家族会の皆様とは常に密接な連絡をとりながら、信頼関係を常に築いて取り組
んでいるということは間違いございません。

(問) あともう1点だけ、飯塚代表は今日帰ってこられますけれども、国連人権理事
会でも北朝鮮側が席を立ったりそういったこともありましたけれども、あのあたりは。

(答) でも、あれ席を立ったけど、委員長がしっかり粛々と議事を進めましたよね。
あれはやはり正しい運営の仕方でしたよね。

(以 上)